

動アシスト付き自転車とその倉庫を整備するための補助金で、観光協会への補助事業となっている。

問 令和3年度の利用者89人で得られる利用料は17万8千円にしかならない。それなのに運営管理委託料として、観光協会へ支払う額は66万円。あまりの落差の大きさと思わないではない。運営管理委託料と実際の事業との実績との整合性について問う。

問 P D C Aサイクル。計画、実行、評価、改善という流れ。一体どれだけの効果を上げるために、どのような活動を開き、どれだけの資源を投入したのか、資源の投入は適切になされたのかどうか。期待されただけの成果が上がつていなかつたとしたら、一体どこに問題があつたのか、



そしてどのように改善していくのか。このP D C Aサイクルはどのようなスキームで実施するのか問う。

答 平成30年に計画を策定し、その後、推進本部会を毎年継続的に開催して、各事業の見直しや改善をしながら実施していく体制をとっている。また推進本部会とは別に、各部署の実務担当者で構成される部会も実施している。



三木 健正 議員

## 市長の政治姿勢について

問 市長として2期目の7年間の市政運営について問う。

答 市長就任後、重点政策として産業振興、観光振興、防災対策、人口減少対策、子育て支援対策の5本を柱にして、2期目からは、高齢化社会対策、文化芸術とスポーツ振興を加えた7本の柱として市政浮揚に向け取り組んできた。

問 任期満了に伴う次期市長選挙に對して、また、その後の市政に対する考え方を問う。

答 本市が元気になるために、取り組むべき課題は、まだまだ山積している状況である。この7年間、様々な施策に対し、たくさんのお言葉や、叱咤激励をいただき、その中で見えてきた将来像、そして進むべき明るい未来に向か、市

民の皆様の声を真摯に受け止め、これまで以上に宿毛市の未来を考えていきたい。

決して歩みを止めてはいけない。ましてや、後戻りをさせでは絶対にいけない。これから宿毛市の未来と宿毛市民のために、引き続き信念を持った、頑張っていきたい。そんな思いから今年行われる宿毛市長選挙に向けて、出馬することを決意している。

## 今後の農道の維持管理と高規格道路の事業化による圃場への影響について

問

今後、農道の維持や管理は効率のよい農作業を行う上で重要であり、事業者の高齢化への対策、また、新規就農やJターンによる事業承継など、担い手不足の解消につながつてくると考える。また、特にふるさと納税事業でも主力となる產品である文旦においては、宿毛内海道路の事業化が決定し、文旦の圃場が減少することも想定されることへの見解を問う。

答 農道については、地元の要望を受けて、市が直接工事を実施する場合とは別に、地

域の活動組織が自ら実施する活動に対しても、多面的機能支払交付金や中山間地域等直接支払交付金の制度の中で、支援をしている状況である。

宿毛内海道路の影響を受け農地の代替地の確保は、非常に重要なことであると認識しております。今後も国と協議を進め、工事用道路などを活用した新たな農地及び農道の確保について検討し、逆に产地の維持拡大を図っていきたいと考えている。

## 宿毛市斎場の事業継続計画について

問

大規模災害発生時の事業継続計画は作成されているのか。また、感染症による影響が出た場合などの計画は含まれているのか問う。

答 平成27年3月に火葬場業務継続計画を策定しているが、現計画において感染症への対応は記載がない。今後の改定については、必要に応じて検討していきたいと考えている。